



## ケイタイを活かし、より快適な生活を 耳の不自由な方へ提案します。

聴覚障害者の方が他の人とのコミュニケーションがとれ、より豊かな生活ができるようになるので、聴覚障害の方に携帯電話の利用を提案します。

聴覚障害者の方は今まで、家の外から連絡をとるとなると、コンビニなどでFAXを借りたりしないと連絡出来ず、かなり面倒でしかもFAXの数も少なくて連絡も取りにくかったのが現状でした。そこに携帯からのメールという連絡手段を使えば、かなり楽に、しかもどこからでも連絡をとることが可能です。

そのためにも、一人でも多くの聴覚障害者の方に携帯をもってもらいたいと思い提案します。

### 資料1

#### 携帯電話に対する聴覚障害者の方の声

(手話通訳の方の協力によるアンケート結果及び、自分が手話協会などからメール返答をもらったものから)

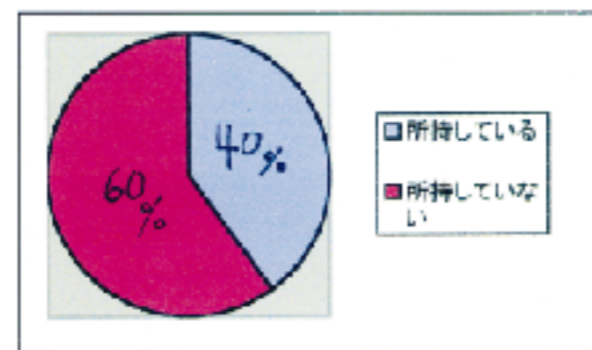
- ・25人中10人が携帯所有
- ・そのうち、全員が携帯メールを使用、半分の方は家庭でEメールを使用している
- ・携帯メールができて、かなり便利になったので、全体に不満はない。
- ・中途失聴者の方は年配者が多いので、画面・文字が小さいと使いにくい。
- ・買う時に、手話が出来なくても筆談などで積極的に情報提供をしてくれると安心して買える。さらに買った後も質問に行った時、面倒臭がらずに対応してくれると嬉しい。

補足:現時点での携帯の聴覚障害者への配慮例

- ・メール機能の強化
- ・ショートメールや、Eメールなど、かなりの文字数が送れる。
- ・バイプレーターと発光機能(tu-kaさんからの返答)



携帯電話に付いている機能として発光やバイプレーターがあります  
(写真は tu-ka)



聴覚障害者の方の携帯電話所持率

### 資料2

#### 各社携帯ショップの横浜の店比較

会社名		店員の方から聞いた、来客者のうちの聴覚障害者の方の比率
ドコモ	月に約5人	1%未満
tu-ka	月に2, 3人	"
au	月に1, 2人	"
Jフォン	月に7, 8人	10%くらい

7月3日の横浜駅周辺の携帯電話ショップにてアンケート

聴覚障害者の方の来店が、多いという返答を頂けたのはJフォンだけで、他は「やっぱり少ない」という返答でした。

また、聴覚障害者の方が来店された際には筆談で対応するとのことで、その内容はドコモが専用のボード(砂鉄を敷いてあるボードに、先に磁石がついているペンで書く)や呼び出しコールが常備されていて、他社は紙を使っての対応だそうです。

98年度の厚生省の統計によると、全国で聴覚障害者の方は約35万人で、そのうち手話を日常的に使う方は約4万人です。

日本国民が約1億2000万人ですので、全国民のうち聴覚障害者の方が約0.25%です。携帯ショップに来る来客者のうち、聴覚障害者の方が約1%以上と考えると、聴覚障害者の方の中で携帯はかなり普及しているということが分かります。

さらに、上記のアンケート時に協力して頂いた手話通訳の方によると「聴覚障害者の方たちの携帯メールの普及はすごく早かった」とのことです。

あと、携帯電話の所持率は一般の方が約60%程度、聴覚障害者の方が50%程度なのであまり変わりはありません。

## 結論

聴覚障害者の方は、携帯メールサービス自体には支障や不満が少ないが、購入の際にショップとコミュニケーションをきちんと取れるかという点に不安を抱いていて、購入する時にきちんとコミュニケーションができることを望んでいる。それに対し携帯のショップ自体は、筆談の体制はきちんと出来ているのに、その点に関しては聴覚障害者の方に知られていない状況なので、筆談体制が整っていることをもっとアピールすることが必要です。

また、ドコモのみが行っていた筆談用のボードなど、聴覚障害者向けの備品を置いていくだけでも聴覚障害者の方は来やすいので、すべての携帯ショップで筆談用ボードなどを置くべきです。

さらに、聴覚障害者の方も手軽に携帯電話を購入できる環境をつくるために聴覚障害者の方自身も、携帯会社に自分達の考えを提案していくべきです。